

重要なまちづくりの課題の現状評価シート

重要なまちづくりの課題(めざすべき姿)	市民が国際感覚を身につけている	年度	平成28年度
施策名	国際交流を推進する	責任部長	教育文化部長
	No.50	主担当課長	生涯学習課長
		関係課	学校教育課

1. まちづくり指標の現状

まちづくり指標	指標のめざす方向	現状値		実績値				目標値
		H18	H20	H21	H22	H23	H24	5年後
		H24	H25	H26	H27	H28	H29	10年後
国際交流事業への参加者数(人)	➔	35,752	33,079	40,654	41,138	39,135	40,283	32,923
		40,283	40,896	39,333	42,239	45,343		41,050
学校などでの国際交流事業の実施数(回)	➔	486	517	453	432	471	508	526
		508	502	560	582	554		568
外国人の一宮市に対する好感度(※好感度を5点満点で評価)	➔	4.0	3.8	3.7	4.0	3.9	3.9	4.2
		3.9	4.3	4.2	4.2	4.2		4.4

2. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・東日本大震災以降、海外からの日本への渡航者が減少していたが、徐々に回復傾向にある。
- ・地場産業が繊維関係であることから、中国及びベトナム籍外国人技能実習生の占める割合が依然として高く推移している。
- ・定住する外国籍市民は増加傾向であり、外国籍の子どもに対する日本語教育の機会の提供が課題である。
- ・市民と外国籍市民が地域で共に暮らしていくための多文化共生事業が必要になってきている。
- ・平成25年1月30日に一宮市とイタリア共和国トレビゾ市が友好都市を結んだことにより、市民の海外への関心が高まっている。

3. めざすべき姿に対する現状評価(まちづくり指標や外的要因等からの評価)

現状評価	A	国際交流事業への市民等の参加者数は増加傾向であり、今年度は4万5千人に達した。学校などでの国際交流事業の実施数は、主に中学校での実施数が減少し、目標値をわずかに下回った。好感度は目標値を若干下回る水準で横ばい傾向であるが、目標達成可能な水準である。
	改善傾向	

評価がB・Cの場合

4. 事務事業群に対する評価(行政活動の評価)

長期成果(事業群①)	長期成果(事業群②)	長期成果(事業群③)	長期成果(事業群④)
評価観点	1. 長期成果は重要なまちづくりの課題(めざすべき姿)の一手前前の状態となっており、モレなくダブリなく設定されているか。 2. 各事業群の事務事業は、長期成果を達成するのに必要十分であるか。		
評価			
次年度の改善計画			

市民からみた計画の進捗状況

□ A □ B □ C

- ・A判定(改善傾向) 31 %
- ・B判定(停滞) 56 %
- ・C判定(悪化傾向) 13 %

